

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	31402		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学習指導と学校図書館		担当者名	榎川 亨			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて具体的方法を学ぶ。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解する。また、学校図書館を活用して行う学習等について、指導者の立場として展開する方法を理解し実践することができる。

<授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークショップが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習指導要領を用いる授業の前には、あらかじめ学習指導要領に目を通しておく。（1時間程度）授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり演習の内容について個人で再度行ったりして学習の定着を図る。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

司書教諭として学校図書館の機能を理解した上で、実際の図書館運営や学校図書館を活用した学習の展開を身につけることにより、学校図書館に関する専門性と実践力を備えた司書教諭の育成を目指す。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

関心・意欲・態度、演習及びワークショップへの参加と貢献、レポートおよび提出物 50%、テスト 50%に基づき評価を行う。

<教科書>

特になし

<参考書>

学習指導要領
 全国学校図書館協議会監修
 学校図書館必携 改訂版
 悠光堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	学校図書館活用教育において展開する学習について概要をつかむ。
2	教育法令と学習指導要領	学校教育にかかる様々な法令と学習指導要領の位置付けを理解する。
3	PISA調査を読む	PISA調査の意義を知るとともに、生徒の調査結果の経年比較から学力上の課題を考える。
4	全国学力学習状況調査を読む	全国学力調査の意義を知るとともに、調査結果から児童生徒の学力の課題について考える。
5	学校図書館と言語活動の充実(1)	言語活動とは何かをイメージするとともに、学校図書館を活用した様々な言語活動について理解する(1)
6	学校図書館と言語活動の充実(2)	言語活動とは何かをイメージするとともに、学校図書館を活用した様々な言語活動について理解する(2)
7	学校図書館と言語活動の充実(3)	言語活動とは何かをイメージするとともに、学校図書館を活用した様々な言語活動について理解する(3)
8	学校図書館活用教育と探求的な学習	探求的な学習の意味と学習においてどのように学校図書館を活用するかについて考える。
9	課題の設定～ウェビング等～	探求的な学習の段階である「課題の設定」の具体的な学習について理解する。
10	情報の収集～参考図書を使う～	辞典や事典、図鑑や年鑑の使い方について理解する。
11	情報の整理・分析～要約学習～	情報の取り出し・整理をする際のスキルとしての要約の仕方を理解する。
12	情報の整理・分析～情報カードを使う～	情報の取り出し・整理をする際のツールである情報カードの使い方を理解する。
13	まとめ～発表資料にまとめる～	発表資料として新聞やリーフレット、スライド資料等へのまとめかたを理解する。
14	探求的な学習を創る	これまでの学習をもとに、自分流の探求的な学習の展開を構想する。
15	まとめ	確認テスト。学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	21204		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語科教育法Ⅰ(基礎)		担当者名	井上 聡			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

最新の英語科教育の方向性について理解し、独自の教育観を持つことが主目的となります。授業の活動としては、英語教育理論、技能統合型の活動、授業準備といった内容に関して、過去の英語学習経験を振り返りつつ、他者との意見交換を通して、今後あるべき方向性について考察を深めることが中心になります。論理的思考力、省察力、協働性を高めるとともに、自分の意見を言語化できることを学修成果として求めます。

<授業の到達目標>

1. 英語科教育の専門用語を理解し、体系化できる。2. 協同学習に主体的に参加し、グループの効果を最大化できるよう貢献できる。3. 教育課題に対する自身の答えを適切かつ的確に言語化できる。

<授業の方法>

1. グループワーク（予習内容に関する教え合い）2. 講義（教員による解説と新たな問いの提示）3. ディスカッション（問いに対する回答）4. 省察活動（まとめと発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（ノートまとめ）（毎回、1時間程度）復習：振り返りレポート（主体性、貢献度、問いの答えなど）（毎回、2時間程度）※wordで作成したレポートを所定のDropboxまたはgoogle classroomに投函すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー5（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている）と関連付けられています。単に知識を習得・活用するだけでなく、英語科教育の課題を発見し、独自の改善策を提案できるような汎用能力の習得を目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲 20%、予習 20%、グループへの貢献度 20%、課題レポート（省察内容の言語化） 40%

<教科書>

JACET教育問題研究会（2017年11月30日）

行動志向の英語科教育の基礎と実践－教師は成長する－

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバス、方針の説明
2	外国語教育の目的と意義	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
3	英語教育課程	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
4	第二言語習得と教授法	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
5	学習者論	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
6	英語教師論	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
7	リスニングとリーディング	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
8	スピーキングとライティング	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
9	技能統合型の指導	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
10	文法指導	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
11	語彙指導	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
12	授業実践	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
13	評価	省察報告、プレゼン、協働学習、事前課題
14	まとめ（1）	総合プレゼンテーション（1）
15	まとめ（2）	総合プレゼンテーション（2）

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	21205		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語科教育法Ⅱ(応用)		担当者名	井上 聡			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業では、協同学習の効果を最大限に活かしつつ、英語力と英語指導力を同時に高めます。英語で文脈を作り、英語中心で導入授業を行う能力を磨くことによって、即戦力的かつ実践的な英語教師の育成を目指します。また、教師に必要なリフレクションの能力を高めるため、自身の強みや弱みを整理したレポートを複数回提出してください。

<授業の到達目標>

1. 新出表現を導入するためのスクリプトを英語で作ることができる。2. スクリプトを見ずに英語で授業ができる。3. 協同学習に貢献できる。4. 適切な相互評価ができる。5. 課題を求められるレベルで仕上げ、期日までに提出できる。

<授業の方法>

第1週 英文スクリプトの吟味(グループワーク) 第2週 マイクロティーチング(グループワーク) 第3週 模擬授業※上記の流れを4回繰り返します。英文スクリプトがグループの代表者がワードで作成の上、期日までにDropboxまたはgoogle classroomに投函してください。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 ① 英文スクリプトの作成 ② 模擬授業の練習 (2時間程度) 復習 課題レポートの提出 (2時間程度) ※レポートはワードで作成の上、Dropboxかgoogleclassroomに投函してください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目の到達目標は教育経営学科のDP6(高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている)と関連付けられています。協同学習への貢献を果たしながら、模擬授業に積極的に取り組み、英語力・指導力を高めつつ、英語教師としての見通しを持ちましょう。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

協同学習 30%、模擬授業 40%、課題レポート(省察内容の言語化) 30%

<教科書>

卯城祐司(2014年6月30日)

英語で教える英文法: 場面で導入、活動で理解

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	新指導要領で求められる英語教育	輪読、討論
2	導入(1) What is this? / He is She is / 一般動詞(like, play, have) / 助動詞can	英文スクリプトの相互評価
3	導入(1) What is this? / He is She is / 一般動詞(like, play, have) / 助動詞can	マイクロティーチング
4	導入(1) What is this? / He is She is / 一般動詞(like, play, have) / 助動詞can	模擬授業の相互評価
5	導入(2) 現在進行形 / 一般動詞の過去形(規則変化) / be動詞の過去形 / be going to	英文スクリプトの相互評価
6	導入(2) 現在進行形 / 一般動詞の過去形(規則変化) / be動詞の過去形 / be going to	マイクロティーチング
7	導入(2) 現在進行形 / 一般動詞の過去形(規則変化) / be動詞の過去形 / be going to	模擬授業の相互評価
8	導入(3) 不定詞の名詞的用法 / 動名詞 / There is / 受動態	英文スクリプトの相互評価
9	導入(3) 不定詞の名詞的用法 / 動名詞 / There is / 受動態	マイクロティーチング
10	導入(3) 不定詞の名詞的用法 / 動名詞 / There is / 受動態	模擬授業の相互評価
11	導入(4) 現在完了: 継続 / 経験 / 完了 / 関係代名詞: 主格	英文スクリプトの相互評価
12	導入(4) 現在完了: 継続 / 経験 / 完了 / 関係代名詞: 主格	マイクロティーチング
13	導入(4) 現在完了: 継続 / 経験 / 完了 / 関係代名詞: 主格	模擬授業の相互評価
14	まとめ(1)	総合ディスカッション
15	まとめ(2)	全員による模擬授業

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	21306		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語科教育法Ⅲ(発展)		担当者名	井上 聡			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業では、中学校英語教科書を用いて、英語授業実践力の強化を図ります。学年・単元別に、文法説明、本文導入、本文音読、他の言語活動といった模擬授業の力を養うだけでなく、単元ごとのワークシート作成を通して、教材開発力を磨き、教育実習に備えましょう。

<授業の到達目標>

1. 新出表現を日本語で分かりやすく説明できる。2. 教科書本文の導入を英語で出来る。3. 教科書本文の内容が正しく理解でき、日本語で説明できる。4. 教科書本文を流暢かつ正確に音読することができる。5. 単元ごとに教材を作成し、正答を導くための解説をすることができる。

<授業の方法>

1. グループワークによる模擬授業（文法説明）2. グループワークによる模擬授業（教科書内容の導入、音読、説明）3. グループワークによる教材開発と模擬授業

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

模擬授業の準備（文法説明・本文・音読・ワークシートなど）（毎回2時間程度）振り返りレポート（google formによる回答）（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のDP7（子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている）に関連付けられています。実際の授業風景に溶け込みながら、45分の授業構成をシミュレーションしましょう。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、模擬授業 40%、教材開発 20%、レポート 20%

<教科書>

笠島準一他（2016年3月11日）
NEW HORIZON English Course 1
東京書籍

0
NEW HORIZON English Course 2
東京書籍

笠島準一他（2016年3月11日）
NEW HORIZON English Course 3
東京書籍

<参考書>

特に指定せず

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
2	中学1年生の教科書指導(1)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
3	中学1年生の教科書指導(2)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
4	中学1年生の教科書指導(3)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
5	中学2年生の教科書指導(1)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
6	中学2年生の教科書指導(2)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
7	中学2年生の教科書指導(3)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
8	中学2年生の教科書指導(4)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
9	中学2年生の教科書指導(5)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
10	中学3年生の教科書指導(1)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
11	中学3年生の教科書指導(2)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
12	中学3年生の教科書指導(3)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
13	中学3年生の教科書指導(4)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
14	中学3年生の教科書指導(5)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）
15	中学3年生の教科書指導(6)	模擬授業（文法、教科書導入、本文音読・説明）

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	21307		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語科教育法Ⅳ(実践)		担当者名	細井 健			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業の目的は、英語科教育知識への理解を深めること、学習者の言語技能を向上させるために授業力を高めること、および、教材開発能力を高めることです。実際の模擬授業や指導案の作成を通して、1授業・1単元を構成する力を養成します。

<授業の到達目標>

(1) 英語科教育知識を深めることができる。(2) 英語授業の導入・展開・まとめに応じた活動を実践することができる。(3) 授業の全体像を把握できる指導案を作成できる。

<授業の方法>

(1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) ディスカッション(模擬授業を対象とした問いに対する回答) (4) 省察活動(まとめと発表)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習(1時間程度)、模擬授業の準備(2時間程度) 復習：振り返りレポート(毎回、2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科ディプロマポリシー7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」に関連づけられています。2年次配当科目である「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」のステップ履修科目です。特に中高英語教員を目指す3年生に対して、教科書の効果的な活用や指導案の作成など英語授業を行うための技能を磨き、指導案を教育実習に備える機会を提供します。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、模擬授業 30%、指導案作成 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要および進め方
2	英語教授法の活用	英語教授法の効果的な使用について
3	教材の研究	教材内容・指導内容 教科書の使い方
4	授業の構成	PPP, PCPP, TBLTなどに基づいた授業構成
5	教科書を用いた指導(1)	英語による英語の授業
6	教科書を用いた指導(2)	語彙・文法指導
7	教科書を用いた指導(3)	言語技能活動および指導
8	授業の指導目標	学習指導要領における外国語科の目標
9	授業の設計①	指導案の作成(単元の学習指導)
10	授業の設計②	指導案の作成(本時の学習指導)
11	授業の設計③	指導案の作成(評価の観点、目標と評価の一体化)
12	授業における評価	評価とテスト
13	模擬授業①	学んだことを生かした模擬授業
14	模擬授業②	学んだことを生かした模擬授業
15	まとめ	授業全体の振り返り

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	31217		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語教授法特論		担当者名	細井 健			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

グローバル社会における英語教育の潮流やこれまでの教授法、日本の英語教育史や政策などを踏まえたうえで、どのように英語を教授し、授業を実践するのか考えます。英語教師に必要な、単元の目標や計画を立て授業を構想する設計力、学習者の語彙・文法を強化し4技能やコミュニケーション能力を育成する指導力、学習者の取り組みや授業の成果を適切に見定め有益に還元するための評価力について学修します。

<授業の到達目標>

1. 国際語としての英語の役割、国内外における英語教育の潮流や教授法などの知識や理論に対する理解を深める。2. 4技能やコミュニケーション能力を育成するために必要な実践的指導力を高める。3. 教授上必要とされる設計力・指導力・評価力を学修する。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4) 省察活動（まとめと発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（1時間程度）、模擬授業の準備（2時間程度） 復習：振り返りレポート（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科ディプロマポリシー7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」に関連づけられています。特に、中高英語教員を目指す3年次生に対して、教科書に基づいて、英語の教授法を学び、英語指導力を多角的に磨く機会を提供します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業での貢献（意見発表・質問） 30%、発表（模擬授業・プレゼンテーション） 40%、レポート課題 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要および進め方 英語教授法の変遷と日本の英語教育
2	英語教授法の活用	英語授業における教授法の効果的な使用
3	文法訳読法と直接教授法①	教授法の理解 授業応用への視点
4	文法訳読法と直接教授法②	教授法を取り入れた授業実践
5	オーラル・アプローチとオーラル・メソッド①	教授法の理解 授業応用への視点
6	オーラル・アプローチとオーラルメソッド②	教授法を取り入れた授業実践
7	コミュニケーション・アプローチ①	教授法の理解 授業応用への視点
8	コミュニケーション・アプローチ②	教授法を取り入れた授業実践
9	第2言語習得理論	理論概要 学習一習得モデル 英語授業への応用
10	ナチュラル・アプローチ/TBLT/FonF①	教授法の理解 授業応用への視点
11	ナチュラル・アプローチ/TBLT/FonF②	教授法を取り入れた授業実践
12	内容中心教授法とCLIL	教授法の理解 授業応用への視点
13	認知言語学の応用	認知言語学の知見を援用した授業
14	アクティブ・ラーニングと協同学習	アクティブ・ラーニング、協同学習を踏まえた授業
15	まとめ	授業全体の振り返り

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	53013		区分	コア科目		実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	学校支援ボランティア		担当者名	大野 光二		○			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学ぶ。

<授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

<授業の方法>

この授業は、前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。活動の記録を日誌として残し、成果と課題をレポートにまとめて最後に発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを確認しておくこと。(30分程度)復習:学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、記録に残しておくこと。(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

学校支援ボランティアの在り方について学び、学校に出かけ児童・生徒の学習面や生活面での支援や指導を行うことを通して、教育経営学科のディプロマポリシーの7(子どもの未来に対する強い使命感と責任を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。)を養うための科目である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ボランティア活動への取組みの様子 40%、レポート及び発表の内容 60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申し込み	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
13	学校支援ボランティアの実習(10)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
14	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことを各自レポートにまとめる。
15	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	51010		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(英語)		担当者名	細井 健			○		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習は、教職の現場を自ら体験することによって教師像を確立するという重要な意味を持っています。事前指導では、実習生に求められる任務を遂行する力や授業を行う技術の習得がねらいとなります。事後指導では、受講生の実習経験を題材としてディスカッションを中心とした授業を行います。各受講生が教育実習期間中に経験した様々な事例が教材となります。事後指導を通して、教職に対する理解を求めます。

<授業の到達目標>

①事前指導においては、教育実習において必要な心構え、指導案作成の技術を身に付けます。②事後指導では、実習中に経験したことに基づいた授業の報告やディスカッションを通し、各自が目標とする教師像を確立します。

<授業の方法>

(1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) ディスカッション(模擬授業を対象とした問いに対する回答) (4) 省察活動(まとめと発表)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：模擬授業の準備、指導案の作成(2時間程度) 復習：振り返りレポート(毎回、2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。」に関連づけられています。中等教育(英語)に関する知識・技能を修め、次世代の教育者や指導者を目指す人を育成するための応用科目であり、特に、中高英語教員を目指す4年生に対して、教科内容を理解したうえで、授業を構成し実践するための基礎的な素養を身につける機会を提供します。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

参加姿勢・貢献 20%、指導案作成・模擬授業 50%、教育自習・実習報告 30% (一定の水準に達していない学生は、教育実習を認めない場合があります。)

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習に臨んで	教育実習の目的、心構え、準備
2	授業観察	DVD教材を利用した授業観察、授業分析
3	授業準備	教科書分析・指導案作成準備
4	指導案の作成(1)	指導案作成の手順
5	指導案の作成(2)	指導技術の工夫
6	模擬授業(1)	模擬授業を実施
7	模擬授業(2)	模擬授業を実施
8	模擬授業(3)	模擬授業を実施
9	模擬授業(4)	模擬授業を実施
10	事前指導のまとめ	事前指導で学んだ内容の確認
11	教育実習の報告①	実習報告とディスカッション
12	教育実習の報告②	実習報告とディスカッション
13	教育実習の報告③	実習報告とディスカッション
14	教育実習の報告④	実習報告とディスカッション
15	事後指導のまとめ	実習全体の振り返り

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	53012		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職実践演習(中学校・高等学校)		担当者名	細井 健			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、これまでに受講した授業と教育実習の振り返りを通してこれまでの学びの内容を確認し、英語教師としての自己成長を続けることのできる能力の習得を目指します。模擬授業、事例研究、新しい指導技術の実践を通して教育現場で必要とされる学級経営力、生徒指導力、英語教師として教育実践力を高めます。

<授業の到達目標>

①英語力を高め自己研鑽をするなど、『教師の成長』について考え、見通しを立てることができる。②『先生が変わる→学校が変わる→子供が変わる→社会が変わる』というサイクル作り出すことについて考え、具体案を提示できる。

<授業の方法>

(1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) ディスカッション(模擬授業を対象とした問いに対する回答) (4) 省察活動(まとめと発表)

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習(1時間程度) 復習：振り返りレポート(毎回、2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科ディプロマポリシー7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」に関連づけられています。「中等教育(英語)に関する知識・技能を修め、次世代の教育者や指導者を目指す人を育成するための応用科目であり、特に、中高英語教員を目指す4年生に対して、教育実習を経験したうえで、教育課題を考え、解決に向けて取り組む力を養う機会を提供します。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①授業への積極的な参加姿勢・グループ活動での貢献 20%、②模擬授業 30%、③課題・レポート 50%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教職実践演習とは	教職実践演習の目的、教師に求められる資質・能力と教育実践力
2	入門期の音・文字指導	アルファベットとフォニックスの指導
3	授業構成(1)	教授法の変遷と日本の英語教育
4	授業構成(2)	テスト作成・評価(CAN-DOリスト/観点別評価)
5	指導技術(1)	リーディング・ライティング指導
6	指導技術(2)	リスニング・スピーキング指導
7	生徒理解(1)	生徒指導と教育相談—エゴグラムの作成と理解—
8	生徒理解(2)	生徒の問題行動に関する事例研究—いじめ・不登校・虐待を中心に—
9	生徒理解(3)	教師と生徒のコミュニケーション—教師のリスニングスキルの向上—
10	指導方法	教科教育で用いられる様々な指導方法：音読を中心に
11	授業形態	協同学習、ペア・グループワーク
12	英語史	英語教師が知っておくべき英語の歴史
13	動機づけ	動機づけ向上をもたらすメカニズム
14	自律的学習者を育てる工夫	授業で行う活動・家庭学習に求められる内容
15	まとめ	教育実践力磨き続けるために